

# 看護学科

分野	統合分野		授業科目	在宅看護学概論	
受講学年	2学年 / 後期		単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師		経験有無	有	
学習目標	1. 在宅看護の概念が理解できる 2. 在宅ケアの連携とマネジメントが理解できる 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源が理解できる				
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針	
1・2	学習の進め方 1. 在宅看護の概念が理解できる	学習方法 1. 在宅看護とは 2. 在宅ケアと在宅看護	ビデオ GW 講義		
3	1. 在宅看護の概念が理解できる	3. 日本の在宅看護の歴史と現状 4. 在宅看護の倫理と基本理念	GW 講義		
4・5	2. 在宅ケアの連携とマネジメントが理解できる	1. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 2. ケアマネジメントと看護 3. 関連職種との連携 4. 在宅ケアシステムの実際	GW 講義		
6・7	3. 在宅ケアを支える制度と社会資源が理解できる	1. 社会資源の活用 2. 在宅ケアを支える医療保険制度 3. 高齢者を支える制度と介護保険 4. 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 5. 在宅難病者療養者を支える制度と社会資源 6. 子供の在宅療養者を支える制度と社会資源 7. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講義 見学 GW		
8	試験				
評価方法	筆記試験		GW 参加		
テキスト	鈴木和子・渡辺裕子 著「家族看護学」日本看護協会出版会 在宅看護論 実践をこばに 第6版 スーベルヒロカワ				
参考図書文献	「国民衛生の動向」厚生統計協会 系統看護学講座 専門基礎10「関係法規」医学書院 よくわかる 介護保険 サービス利用ガイドブック 諏訪広域連合 ナーシング・クラフィカ9「社会福祉と社会保障」メディカ出版				
備考					
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、在宅看護の概念について教育を行う科目				

# 看護学科

分野	統合分野		授業科目	在宅における教育・指導の基本	
受講学年	2学年 / 後期		単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師		経験有無	有	
学習目標	在宅看護の対象の特徴を理解し、 基礎的な看護技術を応用し、在宅における日常生活への援助方法を理解し、実施できる。 赤十字生活支援講習指導員として必要な知識、技術、態度を習得する。 在宅における相談技術・指導技術を理解する。				
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針	
1	赤十字健康生活支援講習 について 【高齢者の健康と安全】 1. 健康な高齢者をめざ して	・赤十字健康生活支援講習とは ・健康生活支援講習を学ぶ目的 (1)健康維持と病気の予防の大切さ (2)生活習慣病の予防 ・メタボリックシンドロームとは・生活習慣病とは ・予防のための日常生活・主な疾患 (3)生活不活発病の予防 (4)運動習慣を身につけよう (5)口の中の健康づくり (6)低栄養状態にならないために (7)健康チェック	講義	老年の特徴を復習  自立への援助復習	
2, 3	2. 高齢者の理解	(1)加齢に伴う変化の特徴 ・身体的機能の変化 ・精神的機能の変化 ・社会的機能の変化 (2)高齢者の観察 ・高齢者の疾患の特徴・高齢者と脱水 ・高齢者と薬	講義		
4	3. 高齢者に起きやすい 事故の予防と手当、急病 への対応	(1)転倒・転落 (2)やけど (3)食物による窒息 (4)入浴中の事故 (5)心臓病が疑われる場合 (6)脳卒中が疑われる場合 (7)観察と気道確保	講義		
5	【地域における高齢者支 援活動】 1. 支援活動とは 2. 支援活動における高 齢者の理解 3. 支援活動にあたって 4. とともに楽しいひとときを	(1)支援活動とは (1)加齢に伴う心身の変化 (1)心がまえ(2)感染予防 (1)毎日のおしゃれから (2)レクリエーション	講義		
6・7	5. 外出、散歩にさそいま しょう	(1)椅子からの立ち上がり (2)車椅子の使用法 (3)杖の使用法	演習 講義・演習		
8	6. 高齢者を支えるネット ワーク 在宅における指導技術 在宅における相談技術	(1)障害のある人への支援 (視覚・聴覚障害のある場合) 在宅看護における指導技術のポイント 在宅看護における相談技術のポイント	講義・演習 講義・演習	基本技術論の教育 ・指導技術の復習	
評価方法	レポート				
テキスト	在宅看護論 実践をこばに 第6版 ヌーベルヒロカワ 家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会 健康生活支援講習教本 日本赤十字社 おとしよりとともに(誰もが知っておきたい介護の基本) 日本赤十字社				
参考図書文献					
備考					
授業科目 の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、在宅における援助方法や指導技術について教育を行う科目				

# 看護学科

分野	統合分野		授業科目	在宅療養者の状態別看護
受講学年	2学年 / 後期		単位/時間数	1単位 / 30時間
担当者資格	看護師		経験有無	有
学習目標	1. 在宅療養者及び家族の支援が理解できる 2. 在宅療養者をささえる看護が理解できる 3. 在宅療養者の状態別看護を理解できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1・2 5	1. 在宅療養者及び家族の支援が理解できる	学習の仕方・進め方 1. 在宅療養をする人たちの理解 2. 在宅療養の成立条件 3. 在宅療養者への看護活動 4. 家族の介護負担とその軽減	講義 GW	
3・4	2. 在宅療養を支える看護が理解できる	1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 地域包括支援センター 4. 訪問看護の実際 5. 訪問看護の記録 6. 訪問時のマナー	講義 演習	I期実習の訪問看護ステーションを復習
5 5 10	3. 在宅療養者の状態別看護	1. 在宅酸素療法・人工呼吸療法・褥瘡・経管栄養・経腸栄養・中心静脈栄養・膀胱留置カテーテルの必要な療養者への看護 2. 寝たきり・認知症高齢者への看護 3. 難病による療養者への看護 4. 生活自立困難者への看護	講義 演習	酸素療法・人工呼吸療法・褥瘡・経管栄養・経腸栄養・中心静脈栄養法・膀胱留置カテーテル法の復習
11・12		1. 終末期にある療養者とその家族への看護		経過別看護の復習
13・14		1. 薬物療法 服薬確認・服薬指導 医師・薬剤師との連携 2. 感染防止 感染防止の原則 感染予防対策 結核・MRSA・疥癬・HIV・AIDS 3. 生活の中で起こる問題の予測と予防 転倒・転落・窒息・熱傷・閉じこもり 虐待・災害時の被災・介護力不足 4. 在宅の特徴をふまえた安全管理の考え方	講義	薬理の基礎を復習 感染予防の基礎を復習 医療安全の基礎復習
15	まとめ	試験		
評価方法	筆記試験			
テキスト	在宅看護論 実践をこばに 第6版 スーペルヒロカワ			
参考図書文献	・訪問看護関係のビデオ ・家族看護学 理論と実践 第3版 日本看護協会出版会			
備考				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、状態による在宅看護について教育を行う科目			

# 看護学科

分野	統合分野	授業科目	在宅看護の看護過程	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師	経験有無	有	
学習目標	事例学習を通して、在宅における対象の看護過程の展開の基礎を学ぶ			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～6	療養者の全体像が描ける	授業の進め方の説明 1. 療養者の今の日常生活を裏付ける 身体的状況が描ける 2. 生活像が描ける 3. 社会像が描ける 4. 療養者の全体像が描ける	演習 個人	看護過程の復習
	療養者の家族の全体像が描ける	家族のアセスメントBのやり方 1. 家族の情報が整理できる 2. 家族に生じた健康問題への対処能力がアセスメントできる 3. 1, 2を統合して全体像が描ける	講義 演習 GW	
	療養者と家族を含めた全体像が描ける	療養者の全体像、療養者の家族の全体像を統合して描ける	GW 演習	
	看護目標が立てられる	優先度順に看護目標を立てられる	GW 演習	
	看護計画が立てられる	1. 看護上の問題があげられる 2. 問題の裏付け、根拠があげられる 3. 期待される効果があげられる 4. 具体像があげられる	GW 演習	
7・8	発表を通して事例の理解を深めることができる	1. グループごとに事例から描いた療養者・家族の全体像と計画を発表し質疑応答をする	演習	
評価方法	事例の評価基準に沿って評点をつける グループの参加状況			
テキスト	1. 在宅看護論 実践をことばに 第6版 ヌーベルヒロカワ 2. 家族看護学、理論と実践 第3版(日本看護協会出版会)			
参考図書文献	1. 看護過程授業資料一式			
備考				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、在宅看護の看護過程について教育を行う科目			



# 看護学科

分野	統合分野		授業科目	医療安全論
受講学年	2学年 / 前後期		単位/時間数	1単位 / 30時間
担当者資格	看護師		経験有無	有
学習目標	1. 医療事故の概念が理解できる 2. 人間行動とヒューマンエラーについて理解できる 3. 医療事故を予防するための考え方が理解できる 4. 看護事故を予防するための考え方が理解できる 5. 医療事故の分析方法が理解できる 6. 医療事故発生後の対応が理解できる 7. 医療安全と看護の責務が理解できる 8. 医療機関における安全対策が理解できる 9. 医療安全施策と医療の質の評価がわかる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	1. 医療事故の概念が理解できる	1. 医療事故とは	講義	医学書院p2~9
2	2. 人間行動とヒューマンエラーについて理解できる	2. 人間行動モデル 3. 人間の特性 4. ヒューマンエラー発生のメカニズム 5. 事故の構造と特性		医学書院p9~12 p186~200
3	3. 医療事故を予防するための考え方が理解できる	6. 事故対策		医学書院p20~36
4		1) リスク低減の考え方  4) 自己モニタリングとリフレクション 5) 専門知識の習得と看護技術の習熟の必要性 6) 事例から学ぶ手法 7) 危険予知訓練の方法 8) コミュニケーション 9) マニュアルの整備と遵守の必要性		医学書院p204~
56		1. 看護事故防止	講義	医学書院p15~35
6		1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方	GW 演習	
7	5. 医療事故の分析方法が理解できる	1. 分析の意義	講義	
8		2. SHELLモデル 3. RCA	演習	
9		1. 医療事故発生時の初期対応の考え方、方法	講義	
10	6. 医療事故発生後の対応が理解できる	2. 紛争下の防止対策		
11		3. 専門職としての個々人の備え		
12	7. 医療安全と看護の責務が理解できる	1. 看護師および看護業務の法的な規定 2. 看護職能団体の取組 3. 医療事故における法的責任	講義	
13	8. 医療機関における安全策が理解できる	1. 組織としての取組 2. 事故の原因と対策の検討と実施 3. 患者・家族との協働による取組 4. 全員参加の医療安全: 安全文化の醸成	講義	医学書院p216~
14	9. 医療安全施策と医療の質の評価がわかる	1. 医療安全に関する国の取組 2. 医療事故等の報告制度 3. 医療の質の評価について	講義	医学書院p240~
15	まとめ レポート		レポート	
評価方法	レポート 参加状況			
テキスト	系統看護学講座 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院			
参考図書文献	よくわかる医療安全ガイドブック 学研 医療安全 メディカ出版 これからの医療安全学 ピラールプレス			
備考	病院の医療安全週間に参加し、標語作りに応募する 実習の前後に医療安全についての振り返り・学習していく			
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、医療事故の概念や予防について教育を行う科目			

# 看護学科

分野	統合分野		授業科目	看護研究
受講学年	2学年 / 後期		単位/時間数	1単位 / 15時間
担当者資格	看護師		経験有無	有
学習目標	<p>身近な看護問題に焦点をあて科学的根拠のもとに、論理的思考ができる訓練をする。 これらを通して研究態度をみにつける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義と必要性が理解できる。</li> <li>2. 研究の基礎および過程が理解できる。</li> <li>3. ケーススタディ発表会および研究発表会で、意見交換および討議を通し研究を深めることができる。</li> <li>4. 研究のクリティークの目的と方法が理解でき、グループのメンバー間で徹底的に討議を行い、他者の研究を客観的に批評できる。</li> </ol>			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	イントロダクション 看護研究の基礎	1.オリエンテーション 2.看護研究の基礎 ・研究とは(研究の歴史) ・研究の目的 ・研究の種類と特徴	講義形式	(キーワードで文献検索)
	研究の過程 (研究問題の記述)	1.研究テーマの選択 2.研究課題の把握 ・文献検索 3.研究目的と仮説 4.研究対象 5.研究方法 ・研究デザインとデータ収集 6.研究結果 7.考察 8.プレゼンテーション	講義形式	
2	研究の一般的な進め方	1.研究過程に沿った研究の進め方 2.研究計画	講義形式	
	調査研究の基礎	1.質問紙調査とは 2.研究における論理的配慮 3.質問紙の具体的な作り方		
	事例研究の基礎	1.事例研究とは 2.事例研究のテーマ 3.事例研究の方法・留意点		看護研究を研究計画書を基に実際に、研究過程を体験する。その後、まとめ、発表する。
3~6	看護研究の実際	1.看護研究の実際 1)実験研究・調査研究テーマ・方法の検討 2)研究計画書の作成 3)研究の実施 4)結果・まとめ 5)発表	演習・グループワーク	
7~8	看護研究のクリティーク	1.研究のクリティークとは 2.クリティークの方法 3.クリティークの具体的展開 4.クリティークの発表	発表 講義形式 グループワーク 発表	
評価方法	参加状況・発表・レポートにて総合評価			
テキスト	川村佐和子 ナーシング・グラフィカ基礎看護学④ 看護研究 2018 メディカ出版			
参考図書文献	<p>早川和生 JJNスペシャルNo.20 研究分野別看護研究の進め方 1995 医学書院          佐藤淑子 他編 JJNスペシャル No.65 看護文献・情報へのアプローチ 2000 医学書院          藤田和夫他著看護のためのパソコンで調査研究(シュミレーションで学ぶ問題点の発見から論文発表まで)          市原清志著 バイオサイエンスの統計学(正しく活用するための実践論理)1994南江堂 2001看護の科学社          黒田裕子 著 黒田裕子の看護研究(step by step) 1997 学習研究社          松木光子 他編 これからの看護研究 -基礎と応用- 2000 廣川書店</p>			
備考	看護研究のクリティークの実際はレポートにまとめ発表する。			
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、論理的思考を身につけるための教育を行う科目			

# 看護学科

分野	統合分野		授業科目	災害看護論	
受講学年	3学年 / 前期		単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師		経験有無	有	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護の基礎的知識を理解できる</li> <li>・災害各期に応じた看護の実際が理解できる</li> <li>・心のケア(被災者、救護者)の重要性及び基本原則について理解できる</li> <li>・赤十字の災害看護について理解できる</li> <li>・災害急性期における災害看護活動に必要な基本的判断力、技術、心構え、行動力を習得できる</li> </ul>				
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針	
1～5	1. 災害看護の定義とその特徴について理解する  2. 災害サイクルに応じた活動現場別の看護について理解する	1. 災害看護の特殊性 1) 災害看護の定義 2) 災害看護の特徴 2. 災害サイクルと看護 1) 災害時における生活の視点とは 2) 災害サイクルと看護師の役割 1. 活動場所ごとの災害看護の実際 1) 災害急性期の看護 救護所の設営 災害と情報 2) 災害亜急性期の看護 避難所での看護 3) 災害慢性期・復興期の看護 仮設住宅・復興住宅での看護 4) 静穏期の看護 災害への備え	講義 DVD          講義 演習 GW DVD	災害医療論での学習 参照	
6～7	3. 心のケアの重要性及び基本原則について理解する。  4. 災害看護活動と赤十字看護師の役割	1. 災害に伴う心の問題とケア(被災者、救護者) 1) 災害サイクルに伴う被災者の心の変化 2) 被災者の心の問題とケア 3) 救護者の心の問題とケア 2. 災害看護と赤十字看護師の役割 1) 赤十字看護師の役割 2) 最近の赤十字看護師の活動の実際	講義 DVD 演習	成人看護学 フインクの危機理論  精神看護学 危機理論 参照	
8	筆記試験 災害拠点病院における災害発生時の活動と看護について理解する	1. 災害発生時の病院の動き 2. 災害発生直後の医療救護活動・看護の実際 3. 傷病者や家族の置かれた状況と心理 4. 災害看護に必要な知識と技能	演習	病院災害シミュレーションに参加	
9	1. 災害急性期における災害看護活動に必要な基本的判断力、技術、心構え、行動力を習得する	4. 災害看護に必要な知識と技能 1. 災害発生時の看護師の任務と心構え 2. 救護班の編成代命令系統 3. 救護を要する患者の観察と応急処置の要点 4. 救護所の開所要件 5. 救急法(実技も) 6. 救護資器材について (テント、発電機、無線機、医療セット) 1) 隊列訓練 2) 担架操作 3) テント設営 4) 発電機の取り扱い ほか	レポート          事前学習          体験学習          レポート	GW レポート 災害医療論での学習、上記までの学習を使う	
合宿研修	学習会	体験の振り返り			
評価方法	1. 筆記テスト 2. レポート 3. 参加時間・状況				
テキスト	看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学 浦田喜久子他 医学書院				
参考図書文献	命とところを救う災害看護 小原真理子監修 学習研修者 災害看護一心得おきたい基本的な知識一 小原真理子他 南山堂 災害看護一人間の生命と生活を守る一 黒田裕子他 メディカ出版 災害看護学テキスト 実践編 南裕子他 日本看護協会出版会 救護班要員マニュアル 日本赤十字社 その他随時提示				
授業科目の教育内容	看護師資格を持ち、看護師として5年以上の臨床経験のある看護師が、災害時の看護や心のケアについて教育を行う科目				